



トレイルの未来は障害者の笑顔の中に。

2006年5月21日(日)第4回トレイル九州大会

田中博・山口尚宏

長崎は今日もにぎやかだった。

田中博(トレイル研究会会長)

長崎の風景

5月21日(日)、大村市役所前の受付には既に大勢の車椅子の方や、松葉杖の人、盲導犬を連れている人。それこそ老若男女がまるでピクニックのようにしゃいで、少し興奮気味に話しています。

「よかとよ」

「あーそうね、よかよか」

話はすぐに着きます。コントロールカードを持ちゼッケンをつけて、グループによるトレイルです。

大村城址公園が会場です。当然掘割や石垣、生垣、コブなどの特徴物を使いコントロールが設定されていました。スタート位置と地図上の地点が5mほどずれています。

スタート係りをはじめ当日の役員は、近くの大学や高校の福祉関係の勉強をしている学生ボランティアが殆どでした。5mほどのずれは気にしていません。

「あ、そっちは違うんじゃない？」

BクラスのグループがどんどんNクラスのルートに進みます。そしてN1と書かれているDPの前でBクラスの地図を見て、首をかしげる事しきり。

トレイル研究会会員の児玉拓、山口尚宏、松川清一、田中博等は、取りあえず自分のスタートまでは初心者説明に専念です。

聞こえてきた長崎の声

判ってきた人、まったくただ付いていけばよいと言う人。子ども頼りの親もいれば子どもそっこの親もいます。1つのグループに説明していると、どんどん輪がひろがってきます。みんなどうすればよいか知りたいのです。

初心者には3番コントロールまで説明しながら進み、「そこからは自分達でお考えください」とお願いしましたが、地図を初めて見る人が1回の説明でどれだけ理解してくれたか心配です。

見てみると、理解度は個人差が激しいことがわかります。解りかけてきた人は地図を見る時間が増えてきます。しかし地図の正置が、地図を1度も見たことの無い人にはいかに難しい事かわかります。まして、生まれてから自分で地図を見て進む道を考えた事の無い人には地図を見、読む事はそう簡単

な事ではありません。

ただ、初めて地図を見、初めて自分で進む道を決め、どっちが東のフラッグかを考える事は、新鮮で、スリルに満ち、新しい発見があり、心躍る体験であった事は間違い無い事と思います。

「どっちね？よかね？」

「東は北の右でよかとね？」

「大村は海のほうが西やから」

などなど、いろいろ聞こえてきます。

ひとつははっきり言える事は、障害者の参加が健常者の参加を上回る大会では、障害者も結構しゃべると言う事です。

改めて考えるバリアフリー

従来のように障害者の参加がわずかに10%にも満たないトレイル大会では、概して障害者の方は静かです。そして何か借りてきた猫みたいな雰囲気を感じられたりします。

少なくともトレイルが新しいバリアフリースポーツを目指すならば、参加者が半々くらいにならないといけないと感じます。

そのためには設備や交通など、クリアしなければならないバリアーがありますが、先ず第1歩として我々の意識のバリアーを取り払う事でしょう。

そんな差別はしていませんと言う方もいます。いわゆる差別ではなく、知らない事から起きる無意識の差別や、過度のいたわり、逆の無視。平気で接する事に慣れてないのです。なにか車椅子の人に対して構えてしまう。そういう貴方がいませんか？

その構えがバリアーなんです。そこでフランクに口をきいてもらえないのではないのでしょうか？

そういった意味からも、今回全コース車椅子で競技をさせてもらった事はとても有意義でした。車椅子と立って歩くのではどれだけ見方が変わるか？その競技時間はどうか？エスコートはどれだけ大変か？身を持って体験し、今後の大会運営に生かせることが色々ありました。

車椅子での競技

もうひとつ言えることは、競技の制限時間は障害者には2割程度の割り増しが必要であると言う事です。いかにエスコートがついても、やはりコントロール周辺の行き来は相当時間がかかりますし、下が舗装されていない場合

は向きを変えるだけで大変です、まして下がぬかるんでいたら、それは一人のエスコートでは到底無理です。

健常者と車椅子の選手の間、コントロールの見方や正解到達に関する難易度の差は、コース設定の際に充分注意する事で僅かにはつくかもしれませんが、勝敗に影響するほどはつかないと思いました。またそれはコントローラーや競技責任者が留意する事で防げるものと思います。

Aクラス上位成績(13Ctrl+1TC)

- 1 杉本 光正 12点9秒
- 2 田中 徹 12点19秒
- 3 松橋 徳敏 12点14秒
- 4 山口 尚宏 11点7秒
- 5 松川 清一 11点12秒

優勝者のコメント

杉本光正選手(ES関東C) 主催者の計らいで、初めて車椅子でトレイルに参加しました。

車椅子での競技は、動きを少なくして効率よく解答を得るために、歩いての競技以上に計画性、判断力、記憶力が要求されるのだということを改めて実感。制限時間をほとんど使用して、ゴールした時には頭がふらふらでした。

それでも、何とか結果を出すことができてほっと一息。車椅子を押してくれた可愛い高校生女の子に感謝。

全日本大会へ向けて

大村市では、来年の市制65周年の記念事業の1つに全日本トレイル選手権大会を決定し、市の予算もつくようです。事務局も大村市観光協会内に置かれ、市の職員が担当者になるように動きだしました。

大会の翌日に大村市長にご挨拶に伺い、その実現のお約束を戴き、今回の長崎訪問の第1の目標は達成されました。

主管の長崎県トレイル協会の仲尾さんは今回の大会のプログラムに

「164名の障害者の皆さんの笑顔の中に、トレイルの未来が見えるはずですよ。私は大会のたびに障害者の皆様から元気をいただいています。」と書いています。いい言葉です。

長崎は来年の全日本トレイル選手



権大会の開催に向けて張り切っています。折角おいで戴く本州からのオリエンティアのみなさんに楽しんでもらえる様、前日にはスプリントとトレイルと、更に前日の夕方のイベントも含めて企画を練っています。

長崎名物のちゃんぽんや皿うどん、しっぽく料理。これらの共通点の一つの具ではなく、いろいろな盛沢山な具を加えていることで、サービス精神満点なところが特徴です。

来年の5月は長崎の全日本トレイルと前日のスプリント(公認予定)&トレイルのちゃんぽん大会に決定です。みなさんも、大勢の障害者の参加がある大会はどのようなものか、長崎まで足を運んでください。

...そうそう、念のため申し添えますが、スタートの がずれていたのはB・Nクラスのみで、Aクラスは競技規則に則った正確な地図、位置説明表記、コントロールなど、誠に良くできたコースでした。

長崎は来年もにぎやかだろう。(田中博)

九州大会参加報告

山口尚宏(OLCルーパー・入間市OLC)九州大会に参加してきました。台風も通りすぎ、天気は申し分なかったです。今回は車椅子で99%コースを回りましたので、その点に絞ってご報告致します。

車椅子の感想

上半身が筋肉痛になりました。漕ぐのだけでも疲れますが、重力に任せてゆるい下りでスピードを出すのは非常に快適です(摩擦熱が出るので、手袋は必需品)。エスコートの人ががんばってくれたので、ほぼ全コース(凹凸や登りを含めて、1番手前の橋だけ降りて歩いた)踏破することができました。

競技への心理的なプレッシャーはそれほどなかったように思います。今後の大会運営、コースプラン、競技への大変よい経験になりました。

運営側立場として大会運営時に注意すると良いと思う点

車椅子は移動時間が相当かかる。機敏に動くこともできないし、登りも時間がかかる。どなたかが提唱していた「車椅子競技者の制限時間を1.5倍」案に頷ける。また会場 スタート、ゴール 会場も可能な限り近くしたほうがよい。

舗装路なら移動時間の差移動の際に競技場や競技場が接する大村公園

(39%に縮小)

の体力のロスが少ないと思うので、なるべく舗装路を使うように心がける。

思ったより視線が低い。これまで以上に視線の高さに影響しないコントロール設定が望まれる。具体的には、遠目のコントロール。何かを見下ろすコントロールなどがよい。特にDPのすぐ前に高さを持ったやぶや斜面がある場合がよくない。

動く手間がかかるので、コントロールの設定上で競技者を大きく動かす場合は、動く範囲に路上渉外物が少なくなるようなところに置く(1)。またフラッグが見えたらすぐDPを置くようにし、無駄な動きを少なくする。

遠くまで回ったらフラッグが見えるかもと期待させておいて実際にはフラッグが見えないときは、そこに立入禁止を書いて、車椅子競技者に余計な時間を使わせないようにする。

競技側立場として成績を上げるために注意すると良いと思う点

どなたかが提唱していた「コントロール間の移動は、車椅子を自分で漕がずにエスコートの人に完全に任せる」に同感。自分で漕ぐと、地図が見られなくなってしまう。

平地であれば、自分でこぐのはかなり力がある反面、押しってもらう分にはエスコートの人にはそれほど力が要らないようだ。

(前記の1に關係)移動することは手間がかかるが(路面が悪い場合は特に手間)割り切って沢山動く。エスコートの人に特によくお願いしておく。

さらに動く手間がかかるために、あとで戻らなくてすむようになるべく早め早めに見ておく。一度見たコントロー

ルの位置関係は忘れないようがんばる。自信がなくなったら素直にあきらめ、エスコートの人に声をかけて見に行く。車椅子でも十分点数は出る！今回優勝者が車椅子。1? 5位のうち3名が車椅子。1? 10名のうち6名が車椅子でした。

このような貴重な機会をくださった仲尾さん始め長崎県トレイルO協会の皆様と、エスコートしてくださった大村城南高校福祉部の皆様に心よりお礼申し上げます。

(山口尚宏)

第3回(平成18年度)
全日本トレイルO選手権大会
平成19年5月20日(日)
長崎県にて開催。「これまでの日本のトレイルにはなかった、すべて自然の中での競技、最高のトレインです」(山川克則氏談)前日イベントも企画しております。今から備えておきましょう！

第33回(平成18年度)
全日本オリエンテーリング大会
平成19年6月17日(日)
北海道虻田郡留寿都村・真狩村

**来年の5、6月は西へ北へ
と大忙しだ!**